

この街が好きだから

# 大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

no. 50

境一丁目にて

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



この作品は、晩秋のある日、境一丁目  
で描いたものである。以前近くに住んだ  
ことのある街並みは、新しいビルが建っ  
たりして、当時の面影がうすらいだ感じ  
がした。

ところで、かなり昔の話だが、少しだ  
け秋に関する話を紹介したい。私が国鉄  
に在職中の頃、意味が分かったら教えて  
ほしいと、三行の文字で「春夏冬／二升／  
五合」と書かれた湯飲み茶わんを友人が  
持ってきた。クイズ好きな私だったが、  
意味が全く分からず、少し考えさせると  
茶わんを借りて彼と別れた。その晩時間  
をかけて私なりに判読した意味を友人に  
伝えたが、確信は持てなかった。

それから半年後、ある書店に立ち寄っ  
た際、偶然茶わんと同じ文字を見つけ  
た。そこには解説があり、うれしいこと  
に私が判読したのと同じ「商い／益々／繁  
昌(秋無い升々半升)」が記載されていた。

(絵と文：大須賀一雄)

## Profile

大須賀一雄  
(おおすかかずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』(旅もようスケッチ会)ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も25回を超える。

※国鉄：日本国有鉄道。現在のJRグループ各社の前身。